

9-4

重度化する利用者のアクティビティ支援の取り組み

経管栄養の方が“主役”のクラブ活動

重度化

クラブ活動

特別養護老人ホーム 白十字ホーム

| | |
|------------------------|-------------------------------------|
| 生活相談員 菅原 まり子（すがわら まりこ） | 生活相談員 柿沼 由希美（かきぬま ゆきみ） |
| 東京都東村山市諏訪町2-26-1 | |
| TEL：042-392-1375 | E-mail： hakujuuji@mua.biglobe.ne.jp |
| FAX：042-392-1255 | URL： http://www.hakujuikai.or.jp |

| | |
|----------------------------|--|
| 今回の発表の施設 またはサービスの 概要 | 社会福祉法人白十字会が母体である白十字ホームは、昭和42年都内で10番目の施設として開設。「となりのトトロ」の舞台モデルとなった八国山のふもとに位置する緑豊かな環境に恵まれた施設です。定員182名（うち12名ショートステイ） |
|----------------------------|--|

〈取り組んだ課題〉

- 重度化する特養における重度要介護者をいかに支援していくか、身体介護にばかり重点がおかれがちな利用者に対して、アクティビティの観点から意図的に働きかける
- 経管栄養の方に楽しく明るい豊かな生活を送っていただくためのクラブ活動を実施

〈具体的な取り組み〉

- 〈歌の会〉「ほのぼのの四季の会」の実施（H19、8～）
 - ・毎月第一、第三月曜日の午後の30分強の時間実施
 - ・職員1名、ボランティアのピアノの先生、家族会より4～5名のスタッフにより運営
 - ・経管栄養の方15名程の参加
 - ・ピアノの生演奏を伴奏に、歌を通じて季節を感じながら、それぞれの記憶や思いを引き出せるよう援助する。歌にまつわる先生の語り（時代背景、その土地の話など）とともに他のスタッフは利用者にリラックスと快刺激を促す関わりを目指す。
 - ・内容（曲目）は毎回その時節に応じて作成
- 〈事前準備で必要となった調整〉
 - ・職員の意識統一（スタッフ/他の職員）
 - ・関係部署間での協力体制の強化
 - ・家族会、ボランティアとの連帯（協力要請）

〈活動の成果と評価〉

- 他利用者・家族(会)・ボランティアとの関わりが増え、また施設内での行動範囲が広がった。（社会性の向上）
- 具体的な活動の場を設けることで職員の働きかけの動機付けとなり、結果確実な離床の促進へと結びついた。
- メリハリのある生活と、リラックスできる活動の提供が利用者のこれまでにない表情、反応、言動を引き出した。
 - ・職員が利用者の新たな（本来の）一面に気づけたことで、その他の個別ケアについて模索する糸口に結びついた。
 - ・経管栄養の方が他の利用者と共に活動することで、他利用者が持っていた重度利用者に対する負のイメージ（自分になりたくない→将来への不安）を和らげることに繋がった。
- 活動が軌道に乗るにつれ、職員の経管栄養の方への処遇について考えること、また日々の体調管理や観察の目を持つこと等職員の意識が向上された。

〈今後の課題〉

- より適切に活動の様子をフロアーに伝え、その情報をいかに有効活用し、いかに個人個人の個別ケアに取り組みめるか。
- 軽度か重度かではなく、個人個人のその人らしさを尊重したプログラムの展開。
- 家族会、ボランティアとの更なる信頼関係の構築。密なやり取りと調整が今後も不可欠。

【メモ欄】